

○全体景況（一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している）

・生産は、熊本地震の影響からの回復等で自動車関連の生産が増加しているものの、個人消費は、衣料品の弱い動きに加え、外国人観光客による消費は高額品から一般消耗品へシフトし伸び悩み。

○生産

・自動車関連：熊本地震の影響からの回復に加え、新型車効果もみられ、北米等海外向けを中心に関東、東海、中国、九州で堅調に推移。

・電子部品・デバイス：

車載向け、スマートフォン向けを中心に東北、関東、東海、北陸、近畿、中国、九州で堅調な動き。

・はん用・生産用・業務用機械：

一部で円高の影響がみられるが、東北、関東、中国では堅調な動き。

・先行き：円高を懸念する声あり。

○設備投資

・製造業：設備の維持・更新に伴う投資に加え、一部に生産能力増強や合理化等への投資の動き。

・非製造業：小売業の新規出店や既存店舗のリニューアルの動き。

平成28年7－9月期地域経済産業調査～全体総括(2/2)～

○雇用情勢

- ・製造業：技術者等で人手不足感があり、派遣社員や経験者などの積極的な採用の動き。
- ・非製造業：小売業、サービス業、建設業等で人手不足感があり、特に小売業で非正規社員に不足感。

○個人消費

- ・百貨店・スーパー：引き続き衣料品に弱い動き。スーパーでの飲食料品は堅調。
- ・コンビニエンスストア：アイスクリーム等季節商材やカウンター商材が好調。
- ・自動車販売：軽自動車は増税の影響が続く
- ・観光：外国人観光客による消費は高額品から一般消耗品へシフトし伸び悩み。

企業の声(平成28年7-9月期)

	企業の主な声
生産	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本地震等からの挽回生産、<u>新型車効果が相まって増産。海外向けが堅調</u> (輸送用機械／東海) ・<u>熊本地震からの復旧が進んだほか、スマートフォン用途の受注が増加し生産増</u> (電子部品デバイス／九州) ・<u>海外向けが中国の景気減速と円高の影響で出荷量がやや減少</u>(窯業・土石／四国)
設備投資	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>人手不足対策として合理化、省力化投資(IT投資)を実施</u> (ドラッグストア／中国) ・<u>ロボット事業の生産能力増強、既存工場でも生産性向上のため設備投資を実施</u> (はん用・生産用・業務用機械／北陸) ・<u>訪日外国人増加に対応し、客室を増やすとともに、リノベーションを実施</u>(宿泊業／近畿)
雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>人手不足が深刻化。他業種の人件費高騰にあわせることができず、有望な人材が流出</u> (食料品／東北) ・<u>正社員の多様な働き方(7時間勤務の選択など)整備により働き方改革に着手</u> (運輸・情報通信業／沖縄) ・<u>女性の職人増にも努力しており、女性職人専用のきれいなトイレの設置を推進</u> (総合工事業／近畿)
消費	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>免税客数が前年より伸びているのに対し、売上高・客単価はともに低下</u> (各種商品小売業／関東) ・<u>気温が高く、飲料、アイスクリーム、冷たい麺類などの売上が伸びた</u> (コンビニエンスストア／北海道) ・<u>「九州ふっこう割」などの観光キャンペーンが好調で、客単価、売上等も上昇傾向</u> (組合団体／九州)

北海道

<p>全体景況</p>	<p>〈緩やかに持ち直している〉 生産設備の定期修理等の影響から生産は一進一退。一方、台風の影響があったものの、飲料・化粧品販売等により個人消費は堅調であったほか、観光は引き続き好調。</p>			
<p>個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産は一進一退の動きとなっている ✓ 大規模定期修理の終了から石油製品が好調だったほか、農機購入補助制度の導入により農業機械が増産。 ✓ 一方、中国の景気減速による発電機部品の受注減や定期修理により自動車用鋼材、印刷用紙が減産となったことから、一進一退の動き。</p> <p>○設備投資は減少している ✓ 製造業では、鉄鋼と食料品で新工場の新設・生産設備の増強投資等があるも、全体では維持補修が多い。 ✓ 非製造業では、小売で新規出店や物流センターへの投資があるも、維持補修が多い。 ✓ 前年度が大規模投資があり高水準だった反動もあり、製造業・非製造業ともに前年度比で減少。</p> <p>○雇用情勢は改善している ✓ 有効求人倍率は長期にわたり改善。一方、職種による雇用のミスマッチにより、建設、観光、製造、小売で現場の従業員が不足。 ✓ このため、中途採用、派遣社員の活用、パート従業員の正社員への登用、賃上げや労働時間短縮等により人員確保。</p> <p>○個人消費は持ち直している ✓ 台風の影響により、百貨店・スーパーでは衣料品等の動きが弱かった。 ✓ コンビニエンスストアでは、飲料・アイスクリーム等の夏物商品、ドラッグストアでは、国内外客ともに化粧品が好調。 ✓ 新車販売では、ハイブリッド車等が好調。 ✓ 観光では、国内外の観光入り込み客は高水準で推移しているものの、台風による宿泊キャンセルが発生し、先行きに懸念。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値</p> <p>93.3(90.1)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p>▲1.2%(▲0.6%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p>2.1%(1.4%)</p>	<p>有効求人倍率 ※季節調整値</p> <p>1.05(1.01)</p>

※指標はすべて8月の数値、括弧内は5月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。 4

東北

<p>全体景況</p>	<p>〈一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している〉 個人消費は台風・天候不順の影響があったが、生産とともにほぼ横ばい圏。設備投資は緩やかに持ち直しており、雇用は引き続き改善した。</p>			
<p>個別の動向 <small>(企業の声及び統計指標から作成)</small></p>	<p>○生産は横ばいとなっている</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 電子部品・デバイスは、車載向け・スマートフォン向けを中心に堅調。 ✓ 生産用機械は、海外向けの半導体関連を中心に増勢。 ✓ 情報通信機械は、生産移管や国内向け減少で弱い動き。 ✓ 輸送機械は、熊本地震の影響から回復後、横ばい傾向。 ✓ 全体としては、車載・スマートフォン向けで堅調な品目があるなか、内需の弱い動きや一部で中国経済減速の影響が継続するなど、横ばいの動き。なお、円高の影響で円換算で減収との声あり。 <p>○設備投資は緩やかに持ち直している</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 製造業では、輸送機械関連の新商品生産に対応した設備投資、食料品の新工場建設等、増額とする企業が多い。 ✓ 非製造業も、新規出店を続ける小売業等、増額とする企業が比較的多い。 ✓ 全体として、前期調査時点からの計画変更は少なく、設備投資額は製造業を中心に前年度比増加の計画。 <p>○雇用情勢は改善している</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 復興需要の下支えもあり有効求人倍率、新規求人倍率ともに高水準で推移し、改善の動きが継続。 ✓ 雇用者の過不足判断では、不足とした企業が大幅に増加。 ✓ なお、製造業では人材不足が深刻化、小売業では短時間労働者の確保が困難、宿泊業では調理従事者が不足等の声あり。 <p>○個人消費は足踏み状態となっている</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 百貨店・スーパーは、飲食料品や化粧品などに動きがあるも、台風など天候不順の影響もあり衣料品の不調が続く。 ✓ コンビニエンスストアは、新店効果等により堅調。新車販売は引き続き減少。全体としてはほぼ横ばいで、足踏み状態。 ✓ なお、節約志向・低価格志向が定着、美術品・宝飾品等の高額品の売筋価格帯が低下との声あり。 			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 <small>(H22=100) <small>※季節調整値</small></small></p> <p style="text-align: center; color: red;">98.1(95.8)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center; color: blue;">▲2.1%(▲1.1%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center; color: red;">2.5%(1.4%)</p>	<p>有効求人倍率 <small>※季節調整値</small></p> <p style="text-align: center; color: blue;">1.30(1.33)</p>

※指標はすべて8月の数値、括弧内は5月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。 5

関東

<p>全体景況</p>	<p>〈一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している〉 生産ではスマートフォン向けや自動車向けの需要等が好調に推移しているものの、個人消費では天候不順の影響などにより一部で売上が低迷している。</p>			
<p>個別の動向 <small>(企業の声及び統計指標から作成)</small></p>	<p>○生産は一進一退で推移している ✓ 輸送機械は軽乗用車の国内向け販売が伸び悩むも、普通・小型乗用車の海外向け販売は好調で、生産は堅調に推移。 ✓ 一般機械及び電気機械は、円高による影響はあるも、液晶パネル向けの需要が堅調に推移。 ✓ 電子部品はスマートフォン向けや自動車向けの需要が好調で、フル生産の企業も。</p> <p>○設備投資は前年度を上回る見込み ✓ 製造業では、大企業、中小企業ともに年度当初の計画どおりに設備投資を行うという声が多く、また、補助金を活用して設備投資計画を追加したという声も。 ✓ 非製造業では、大企業を中心に、年度当初の計画どおり、あるいはそれ以上に新店や設備投資を行うといった声あり。</p> <p>○雇用情勢は改善している ✓ 製造業では、現業部門や技術者を中心に人材の不足感がみられ、派遣社員や経験者などの積極的な採用の動き。 ✓ また、雇用情勢の改善に伴い、中小企業を中心に人材の確保が難しい状況に。 ✓ 一方、一部では売上の減少などにより人員に過剰感があるとする声も。 ✓ 非製造業では、技術者や、小売業での店舗販売員等に不足感があり、今後も継続するとの見方が強い。</p> <p>○個人消費は一部に弱い動きがみられるものの緩やかに持ち直している ✓ 百貨店では衣料品の売上が引き続き低迷。特にボリュームゾーンの中間層が低迷。訪日外国人の客単価は減少。 ✓ 家電量販店では、4Kテレビが堅調なものの、天候不順からエアコンが不調。 ✓ コンビニエンスストアはアイスクリームや冷やし麺等の季節商材やカウンター商材が好調だったが、天候不順により来客数は伸びなかった。 ✓ 旅行・観光は、国内では天候不順の影響を受けた。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 <small>(H22=100) <small>※季節調整値</small></small></p> <p style="text-align: center;">93.0(90.2)</p>	<p>百貨店・スーパー <small>販売額(前年同月比)</small></p> <p style="text-align: center;">▲3.8%(▲2.1%)</p>	<p>コンビニエンスストア <small>販売額(前年同月比)</small></p> <p style="text-align: center;">2.0%(1.8%)</p>	<p>有効求人倍率 <small>※季節調整値</small></p> <p style="text-align: center;">1.42(1.42)</p>

※指標はすべて8月の数値、括弧内は5月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。 6

中部(東海)

<p>全体景況</p>	<p>〈一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している〉 生産は、主力の輸送機械に増加の動き、電子部品・デバイスに持ち直しの動き。百貨店・スーパー・家電販売などでは、天候の影響もあって客数・売上が減少。</p>			
<p>個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産は緩やかに持ち直している</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 自動車関連は、海外向けが堅調、国内向けに新型車効果等がみられ、熊本地震等からの挽回も加わり、増加の動き。 ✓ 金属工作機械は、国内向けは、中小企業が補助金関係以外で動きが止まり、北米向けはこれまで堅調であった自動車向けが力強さを欠くなど、国内向け、海外向けともに減少。 ✓ 電子部品・デバイスは、スマートフォン向けを中心に持ち直しの動き。 <p>○設備投資は増加しているものの、伸びは鈍化している</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 製造業では、引き続き積極的な合理化・効率化投資や維持・更新に加え、自動車部品や金属工作機械の一部には能力増強投資。大企業は継続的に投資をしているが、中小企業は補助金への期待が強い。 ✓ 非製造業では、百貨店やスーパー、自動車販売などの小売業で改装の動き。 <p>○雇用情勢は着実に改善している</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 製造業では、大企業における技術職や中小企業を中心に不足感が継続。 ✓ 非製造業では、スーパーやコンビニエンスストアなどの小売業で非正規社員などの不足感が継続し、募集しても人が集まりにくい状況。 ✓ 製造業・非製造業ともに、労働需給が引き締まっている状態。 <p>○個人消費は足踏み状態となっている</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 百貨店・スーパー・家電販売・アウトレット等では、天候の影響もあって来店客数・売上が減少。百貨店では、衣料品の不振が継続。インバウンド需要は、高額品から一般消耗品へシフトし、伸び悩み。スーパーでは、飲食料品が伸び悩み。 ✓ コンビニエンスストアは、カウンター商材が引き続き堅調。 ✓ 家電販売は、白物家電に動きがみられたが、情報家電の不振が継続。 ✓ 乗用車販売は、軽自動車の不振が継続しているものの、普通車は好調。 			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値</p> <p style="text-align: center; color: red;">110.1(104.9)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center; color: red;">▲2.5%(▲2.5%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center; color: red;">2.3%(1.8%)</p>	<p>有効求人倍率 ※季節調整値</p> <p style="text-align: center; color: blue;">1.58(1.62)</p>

※指標はすべて8月の数値、括弧内は5月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。
 ※コンビニエンスストア販売額は、中部全体の数値。

中部(北陸)

<p>全体景況</p>	<p>〈一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している〉 個人消費は衣料品を中心に足踏みが続き、北陸新幹線開業効果の反動もみられるものの、生産及び設備投資は高水準を維持しており、雇用情勢も改善している。</p>			
<p>個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産は高水準で推移している ✓ 化学は、医薬品で薬価引下げの影響がみられるものの、後発医薬品を中心に好調。 ✓ 電子部品・デバイスは、スマホ向けの伸びが鈍化するも、自動車向けなどが堅調。 ✓ はん用・生産用・業務用機械は、工作機械が北米を中心に堅調も、国内向けは落ち着き、中国向けは引き続き低調。 ✓ 繊維は、海外衣料は堅調に推移するも、国内衣料を中心に低調。 ✓ 金属製品は、ビル用アルミ建材の大型受注が堅調も、住宅用は人手不足による工事遅延など出荷までのタイムラグもあって、回復に遅れ。</p> <p>○設備投資は高水準で推移している ✓ 製造業は、一部で前年の反動減がみられるも、生産能力増強に加え、新製品の研究開発や生産性向上のための投資が継続。また、需要地としての海外投資にも積極的。 ✓ 非製造業は、北陸新幹線開業に伴う大型案件が落ち着くも、一定のリニューアル需要や営業エリア外に新規出店増加の動き。</p> <p>○雇用情勢は改善している ✓ 製造業では、人員不足の企業で、派遣社員や中途採用や社内における配置換えなどにより最適化。 ✓ 非製造業では、慢性的な人手不足状態が続き、賃金アップや効率的なシフト・人員配置などで対応。</p> <p>○個人消費は足踏みがみられる ✓ 百貨店では、衣料品を中心にシニアや中間層の消費マインドが回復せず、一部地域ではプレミアム商品券の反動減も。 ✓ スーパーでは、競合店のオープン影響が一巡し客足は戻りつつあるも、人口減少などから客数は減少傾向。 ✓ 消費者は、品質を落とさずに安さを求める傾向が強く、一方、こだわりを持った購入志向も継続。 ✓ 観光客は、前年の北陸新幹線開業効果の反動により、足踏み状態。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値</p> <p>120.8 (118.9)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p>▲1.4%(▲1.9%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p>2.3%(1.8%)</p>	<p>有効求人倍率 ※季節調整値</p> <p>1.64(1.67)</p>

※指標はすべて8月の数値、括弧内は5月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。

※コンビニエンスストア販売額は、中部全体の数値。

近畿

<p>全体景況</p>	<p>〈一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している。〉 個人消費は改善の動きに足踏みがみられるものの、生産は電子部品・デバイスや電気機械が高水準で推移するなか全体としては横ばい、雇用情勢は改善している。</p>			
<p>個別の動向 <small>(企業の声及び統計指標から作成)</small></p>	<p>○生産は横ばい ✓ 電子部品・デバイスは、スマートフォンの高機能化により好調。 ✓ 電気機械は、車載用をはじめとする蓄電池や季節家電が堅調に推移。 ✓ 輸送機械は、自動車部品等が増加。 ✓ はん用・生産用・業務用機械は、フラットパネル・ディスプレイ製造装置等が減少。 ✓ 鉄鋼は、世界的な需給緩和が続いていることから、低調に推移。</p> <p>○設備投資は持ち直している ✓ 製造業では、設備の維持・更新投資を中心に一部では生産能力増強投資も。地産地消を目的とした海外投資も継続。 ✓ 非製造業では、物流施設への投資や需要拡大のための店舗改装、訪日外国人増加に対応する投資がみられる。</p> <p>○雇用情勢は改善している ✓ 依然として人手不足が継続。小売業やサービス関連を中心に人手の確保が困難であり、また有資格者や技術者などの人材獲得競争が激化しているとの声。 ✓ 新規採用は、毎年継続して一定の採用人数を確保する意向が強いが、内定辞退等により確保が困難との声もある。また残業の抑制による長時間労働の解消、女性や外国人の活用もみられる。</p> <p>○個人消費は改善の動きに足踏みがみられる ✓ 百貨店は、残暑により秋物が苦戦するなど衣料品の不振が継続するなど、弱い動き。スーパーは、惣菜等が好調である飲食料品を中心におおむね堅調。コンビニは好調。 ✓ 家電は、気温の上昇とともに季節家電が伸長するも、総じてみれば弱含み。 ✓ 乗用車は、軽自動車の回復が遅れているが、普通車は新型車効果もあり前年を上回っている。 ✓ 旅行は、引き続き政情不安等から海外が低調。外国人観光客による消費については、高額品の購入が減少するも化粧品が好調との声。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 <small>(H22=100) ※季節調整値</small></p> <p>102.0(103.3)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p>▲4.0%(▲2.3%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p>3.9%(3.3%)</p>	<p>有効求人倍率 <small>※季節調整値</small></p> <p>1.30(1.29)</p>

※指標はすべて8月の数値、括弧内は5月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。 9

中国

<p>全体景況</p>	<p>〈持ち直している〉 軽乗用車の生産再開、スマホ向け電子部品の受注増などにより生産は上向きで推移し、猛暑やオリンピック、地元球団の優勝セールなどの特需で個人消費に明るさがみられた。</p>			
<p>個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産は緩やかな持ち直しの動き ✓ 自動車はマイナーチェンジの実施や輸出の好調、軽乗用車の生産再開により増産。 ✓ 電子部品・デバイスはスマホ向け受注増により増産。鉄鋼は粗鋼生産が対前期比で微増し、薄板の在庫が2年半ぶりの水準に低下し緩やかに持ち直し。 ✓ 海外顧客からの受注が好調であるはん用・生産用・業務用機械、一部事業所で設備トラブルや定修があるもフル生産の品目もある化学は高水準で推移。 ✓ 一方で、急激な円高により、一部に先行きを懸念する声も。</p> <p>○設備投資は持ち直している ✓ 製造業では、受注増加や新製品対応に向けた前向きな動きに加え、老朽化や生産性向上対応として行う既存設備の維持更新が進められている。一方、採算悪化や先行き不透明感から設備更新を先送りする動きも。 ✓ 非製造業では、引き続き、新規出店や既存店の増床・改装、設備の維持更新が進められている。</p> <p>○雇用情勢は着実に改善が進んでる ✓ 正社員・パートを問わず、製造業では技術職、非製造業では様々な職種で人員不足の声が聞かれる。また、人員不足を補うため残業時間を増やしているとの声や外国人の技能実習生を増やしているとの声も聞かれた。</p> <p>○個人消費は持ち直している ✓ 百貨店では、飲食料品は改装効果などで好調だが、衣料品など不要不急なものは動かず、スーパーやホームセンター、ドラッグストアでも消費者の節約志向が強くなっているとの声。 ✓ 猛暑によりアイスクリーム、飲料、扇風機、エアコン、散水用品などがよく売れ、オリンピック開催によりテレビなどの販売が増加した。9月は広島東洋カープ優勝セールの特需も。 ✓ 乗用車販売は、軽乗用車の販売不振に改善の動きがみられ、回復傾向。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値</p> <p>96.4(92.0)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p>▲2.3%(0.7%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p>5.2%(2.7%)</p>	<p>有効求人倍率 ※季節調整値</p> <p>1.57(1.56)</p>

※指標はすべて8月の数値、括弧内は5月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。10

四国

全体景況	<p>〈一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している〉</p> <p>生産は、中国経済減速や円高の影響から、化学・石油石炭製品、輸送機械(造船)などで減少したものの、パルプ・紙・紙加工品などでは好調な海外需要を背景に増加した。</p>			
個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)	<p>○生産はおおむね横ばい</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ パルプ・紙・紙加工品は、衛生用紙で輸出に伸びがみられるなど、おおむね高水準の生産。 ✓ 電気機械は、スマホ部品などで需要の改善から、持ち直しの動き。 ✓ 繊維、鉄鋼、非鉄金属、はん用・生産用機械などは、おおむね横ばいで推移。 ✓ 化学・石油石炭製品、窯業・土石、輸送機械(造船)は、中国経済減速や円高の影響などから、一部で弱い動き。 <p>○設備投資は緩やかな持ち直しの動き</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 設備投資計画は、維持・更新投資が多いものの、製造業では、食料品やパルプ・紙・紙加工品、プラスチック製品などで増産・新規受注対応のための投資も計画されている。 ✓ 無人化ラインの拡充など合理化・省力化投資を計画している企業が相当数みられるほか、BCP対策として耐震補強、浸水対策を行う企業も一部にみられる。 ✓ 非製造業では、小売などで引き続き店舗の新設投資などが見込まれている。 <p>○雇用情勢は改善している</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 雇用者数を適正とする企業が多いものの、食料品、プラスチック製品、小売、住宅販売、建設などでは人手不足感が強く、雇用者数を増やす動き。 ✓ 一方、中小企業を中心に、採用したい職種の人材確保が難しく、小売、建設などでは、事業活動に影響が及ぶことを懸念する企業も。 <p>○個人消費はおおむね横ばいの動き</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 百貨店は、猛暑により秋物の動きが鈍いなど、弱い動きとなっている。スーパーは、清涼飲料や総菜など飲食料品に動きがみられ、コンビニエンスストアは、新店効果などにより、堅調に推移している。 ✓ 家電販売は、白物家電などに動きがみられ、持ち直しの動き。乗用車販売は、普通乗用車の堅調な動きもあって横ばい。旅行は、海外旅行が回復傾向にあるものの、国内は弱い動きがみられ、横ばい。 			
関連指標	鉱工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値	百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)	コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)	有効求人倍率 ※季節調整値
	100.2 (102.5)	▲1.7%(▲0.5%)	5.3%(3.3%)	1.40(1.41)

※指標はすべて8月の数値、括弧内は5月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。11

九州

<p>全体景況</p>	<p>〈緩やかに持ち直している〉 生産は熊本地震の影響で低下した自動車、半導体等の挽回生産で持ち直しの動きがみられるほか、個人消費も復興需要等により、一部弱いながらも持ち直しの動きがみられる。</p>			
<p>個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産は持ち直しの動きがみられる ✓ 輸送機械や電子部品・デバイスが熊本地震からの挽回生産等で生産が増加し、空調機器、住宅設備機器は国内外向けともに堅調に推移。 ✓ 一方で、鉄鋼では国外需要の減少等に加え、足元の円高により収益環境が悪化、食料品は熊本地震の特需の反動減等の動きもあったが、健康志向の商品を中心に堅調な生産が継続。</p> <p>○設備投資は持ち直しの動きに一服感 ✓ 製造業では、はん用・生産用機械、電気機械で新商品開発に向けた投資がみられ、輸送用機械、飲食料品等で増産に向けた投資の動きあり。 ✓ 非製造業でも店舗のリニューアル等の動きがみられ、製造業、非製造業ともに、熊本地震の被災施設の修理などで投資が増加。一方で、前年度の大型投資の反動や計画の見直し等で前年を下回る企業も。</p> <p>○雇用情勢は改善している ✓ 有効求人倍率が上昇を続ける中、一部では求人が充足せず、人手不足感が強まっており、女性社員の積極的登用や、非正規社員の正社員への転換など、人材の確保・定着を図る動きがみられた。</p> <p>○個人消費は一部弱い動きながらも持ち直しの動きがみられる ✓ 百貨店・スーパーでは7月はセール等で夏物衣料に動きがみられたが、8月は猛暑日が多かったことなどから来店客数が減少。 ✓ 観光は「九州ふっこう割」などで持ち直しの動きがみられる。 ✓ 家電販売はテレビ・エアコンが好調、地震で損傷した家電の買換需要も継続。 ✓ 住宅関連は地震の復興特需がみられる。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値</p> <p>105.2(96.4)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p>▲2.9%(▲2.5%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p>10.1%(7.9%)</p>	<p>有効求人倍率 ※季節調整値</p> <p>1.26(1.20)</p>

※指標はすべて8月の数値、括弧内は5月の数値。指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。12

沖縄

<p>全体景況</p>	<p>〈改善が続いている〉 観光客数の増加、管内の人口増加、雇用環境の改善等を背景に、個人消費が堅調に推移している。</p>			
<p>個別の動向 (企業の声及び統計指標から作成)</p>	<p>○生産は一部に弱い動きが見られ足踏み状態となっている ✓ 管内の主要な製造業である食料品工業は、観光客数増加等を背景に堅調に推移。 ✓ 鉄鋼、窯業土石製品は、住宅・公共投資が底堅く推移しているものの、発注調整や設計変更等による工期の遅れを懸念する声。先行きについては、年度後半から受注・生産も増加するとの声が多く聞かれた。</p> <p>○設備投資は緩やかに持ち直している ✓ 製造業・非製造業ともに平成28年度計画を増額。 ✓ 製造業では、最新機器導入やシステム更新を中心とした設備投資、非製造業では、一部には従業員満足度向上(空調施設整備等)や人手不足対策(機械化等)のための設備投資を実施するなどの声が聞かれた。</p> <p>○雇用情勢は改善が続いている ✓ 有効求人倍率は、全国と比べ差があるも、3ヶ月連続で1倍台を記録するなど堅調に推移。 ✓ 建設業や情報通信業では技術者、小売業では非正規職員、運輸業やサービス業では正規・非正規職員ともに不足。 ✓ 一部には、募集時の業務説明会によるミスマッチ解消(早期離職の低減)やIT活用・機械化、働き方改革(ワークライフバランス等)を実施するなどの声も聞かれた。</p> <p>○個人消費は改善が続いている ✓ 百貨店・スーパーでの販売額が前年同月比を上回るなど堅調に推移。背景の1つとして、航空路線の拡充やクルーズ船の寄港数増加など、入域観光客数が47ヶ月連続で前年を上回るなど堅調に推移。 ✓ また、一部には、人口の増加や観光客数の増加、雇用・所得環境の改善が個人消費を引き上げているとの声も。</p>			
<p>関連指標</p>	<p>鉱工業生産指数 (H22=100) ※季節調整値</p> <p style="text-align: center;">96.7(97.2)</p>	<p>百貨店・スーパー 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center;">3.1%(7.0%)</p>	<p>コンビニエンスストア 販売額(前年同月比)</p> <p style="text-align: center;">5.8%(5.8%)</p>	<p>有効求人倍率 ※季節調整値</p> <p style="text-align: center;">1.00(0.98)</p>

※鉱工業生産指数は7月の数値、括弧内は4月の数値。その他の指標は8月の数値、括弧内は5月の数値
 指標が改善している場合は赤色、悪化している場合は青色、変化なしの場合は白色。